



発行日 H23. 1. 8

法政大学アカデミー合唱団 50周年記念事業 情報NEWS
アカデミータイムズ 増刊号

発行 OB会事務局

Festival NEWS vol.3

新年明けましておめでとうございます。今年は50周年記念
フェスティバルの成功を目指し青春時代にひととき戻りましょう。
そしてよろしく願いいたします。

平成23年1月

法政大学アカデミー合唱団 OB会事務局

組曲蔵王より、「早春」の演奏に当たって

一期 佐藤隆衛

「蔵王」は、アカデミー第一回定演の、第一ステージで演奏した。アカデミー合唱団の幕開けにふさわしく、我々はその曲の新鮮さに魅了されて歌った。初演ということもあって、作曲者の佐藤眞さんをお招きしたのだが、あれから50年も歌い継ぎ、最近では作曲者の指揮で歌われたというのは実に素晴らしいことだと思う。この「早春」では、厳しい冬を越して春が来た喜びを全身に込めて、明るくすがすがしく歌いたいものだ。難しい音程もなく、親しみやすい旋律であり、また歌いなれた曲だけに、ともすると平凡な演奏になりかねない点を一番注意したい。考えてみると、このような曲こそお客さんに感動させるのが難しいのではないかと思う。当たり前のことだが、言葉の発音から一つ一つの発想記号に至るまで、細心の注意を払って楽しく歌い、最終のステージを盛り上げたいと思う。

プロフィール

僕が入学（日文科）したのは昭和34年（1959年）で、入学式で混声合唱団が校歌を歌ったのを聴いて即入団を決意した。ちょうど福永先生が常任指揮者に迎えられた時で、歓迎会の席では「僕がやるからには必ず日本一の合唱団にしてみせる」と挨拶されたのを鮮明に覚えている。

地方出身の僕にとっては、先生の仰るひと言ひと言に胸を揺さぶられ、聞き逃すまいとノートや楽譜に書き付けたのだった。それは未知の世界が日々開けていくようなもので、新鮮さに溢れて充実した学生生活が過ごせた。

僕ら一期生はどうしても合唱団分裂のことを避けて通れない。安保運動を契機に表面化した意見の対立から文連脱退、アカデミー創立までという一連の流れは苦渋の展開だった。それだけに第一回定演が成功した時は、お互いが心底から喜び合ったのである。以来半世紀を迎えて、輝かしい実績を残されたすべてのアカデミアンの努力に賛辞を贈り、心から感謝したい気持ちである。

卒業後は郷里の高校教師になった。合唱団を創りたいと思ったが、恩師の依頼で野球部の監督を任されたのである。僕の高校時代は野球漬けで、甲子園を目前にして敗れたものだから再び夢を追うことになった。退職までノックバットを振ったが、甲子園までの道は険しく、三十数年熱中しても三回しか甲子園に出場できなかった（1984春・夏：大船渡高、2006春：釜石南高）。幸い昭和59年（1984年）春は、ベスト4まで勝てたが、アカデミーOB諸氏からも、激励した頂いたことは格別に有り難かった。

僕が教師として、又監督として生徒に接する時には常に福永先生が脳裏にあった。あの温かいお人柄、豊かな教養や研ぎ澄まされたセンス、その奥底からにじみ出る情熱と指導力は、大きな、大きな鑑だった。先生は一流の音楽演奏家であるばかりか、どのような教育者にも勝る偉大な教育者だった。そして一人の芸術家から、僕はホンモノの人間のあり方を学んだと思っている。

今は市の体育協会で仕事をしていて、スポーツ談義に興じたり、加えて歌を好む多くの仲間がいるのだから、こんな楽しいことはないと思う日々を送っている。

次回練習日 1月22日

皆様のご参加お待ちしております。

法政大学アカデミー合唱団OB会
平成23年度OB総会

法政大学アカデミー合唱団OB会
平成23年度新年会

【総会】日時:平成23年1月22日(土) 16時30分～
議題:平成22年度決算/事業報告、平成23年度予算/事業計画
創立50周年に向けて、現役支援について、役員改選、他
会場:小岩区民館コミュニティホール
※当日は、13～16時の間、フェスティバル合唱団の練習が実施
されております。練習終了後、引き続き、総会を開催いたしますが
させていただきます。ご了承ください。

日時:平成23年1月22日(土) 19時～ 総会終了後
会費:お一人様 4,500円
会場:サンライズプラザ
住所:江戸川区東小岩6-18-17(練習会場徒歩1分!)
※OB総会が長引いた場合、開始時間が遅くなる可能性
があります。



50周年合同ステージに向けて

16期の早川です。今回の合同ステージにおいてフォーレの「ラシーヌの雅歌」を振らせていただくことになりました。

思い起こせばもう36年前になりますが、アカデミーが悲願のコンクール全国金賞を初めて受賞した折り、課題曲として取り組んだのがこの作品でした。モーツァルトの「アヴェ・ヴェルム・コルプス」と並んで合唱音楽史上まれに見る「完成された合唱曲」として世界中で愛唱されている名曲です。

その当時は馴れないフランス語の発音や、限られた演奏時間などの制約でこの曲の真の姿を表現できていたのかははっきり記憶に残ってはいません。

今回あらためてこの作品に向かい、総勢200人にならんとする大合唱でフォーレの静謐でしかし情熱のこもった音楽を作り直せる機会を与えられたことに感謝しております。

こんにちは。いざわでございます。

33期 伊澤さん

アカデミーが『地平線のかなたへ』を全曲初演したとき(1992年定演)、自分は2年生でした。演奏会終了後は関屋先生の荷物持ち係でしたが、先生はレセで会場内を徘徊されるので、お付きの任務が果たしづらく、ずっと木下先生と話しておりました。木下先生についてはこちらの不手際で、初演なのに練習にお呼びすることができなかつたため、あまりご機嫌がよろしくありませんでしたが、終始静かな口調で作曲家の視点から話をしていただけましたことが思い出されます。

さて、アカデミーに今も残る「暁の勇者」は、同じ年に編曲して、その定演のロビーストームで初演したものです。当時も今も自分は理論や理屈が好きです。他にやりたい人もいたのに自分が学指揮に選ばれたのは、おそらく調べものや分析ばかりしていたからだと思います。学業の方は法律学科でしたが、そっちはやらずにラテン語やギリシャ語を読んでおり、卒業してからは神楽坂を上って他へ行っちゃいました。今年の正月は法政スポーツがなかったので違う学校の応援をしていましたよ。けれどもやはり法政が最高であり、「暁の勇者」以外にも法政関連編曲がありますので、そちらもよろしくお祈りします。

連絡先: aloha_vodka@yahoo.co.jp